

新科目「地理総合」に関する一考察

— 内容と評価問題について —

秋本 弘章

1. はじめに

平成30年告示高等学校学習指導要領の最も大きな改革の一つが、「地理歴史」の科目の再編である。「地理歴史」は、平成元年告示の学習指導要領において、「社会」の再編によって生まれた教科の一つであり、従来、「地理歴史」は、世界史A（2単位）、世界史B（4単位）、日本史A（2単位）、日本史B（4単位）、地理A（2単位）、地理B（4単位）の6科目から構成され、世界史Aまたは世界史Bから1科目、日本史A、日本史B、地理A、地理Bの中から1科目が必修とされてきた。平成30年告示の学習指導要領では科目構成の見直しが行われ、「地理総合」「歴史総合」を新設、必修とし、その上に「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」の3つの選択科目を設定したのである。

筆者は、「地理総合」の必修化について、日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会、日本地理学会地理教育専門委員会等を通じてかかわってきた。また、高大接続に関して、大学入学者選抜改革推進委託事業人文社会分野（地理歴史科・公民科）（代表早稲田大学）の地理分科会の委員として議論に加わる機会を得た。本稿は、「地理総合」が効果的な実践が行われることを期待しつつ、その内容および評価について検討することを目的とする。

2. なぜ「地理総合」が必修化されたのか

「地理総合」の必修化は、「地理歴史」全体の改革の中で行われてきた。ことの発端とされるのは、2006年に富山県で発覚した履修漏れ問題である。本来履修すべき科目であった、「世界史」が履修されていなかったのである。同様のことが全国の多くの高等学校で行われていることが表面化、大きな社会問題となった。このことをきっかけに「地理歴史」の教科構造が

問題視されるようになった。東京都や神奈川県等では、「日本史」の必修化を目指す知事が出現した。しかし、「世界史」に加え「日本史」を必修にすることは、「地理歴史」ばかりでなく高等学校の教科構造をゆがめることになる。こうしたことから、より合理的な見直しが模索されたのである。

日本学術会議心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会では、グローバル化する社会においては、「時間認識と空間認識のバランスのとれた教育」が必要であるという認識のもと、「地理基礎」「歴史基礎」の2科目を新設し、必修化を提言した。この提言には、歴史学、地理学、地域研究等の研究者だけでなく、多くの現場の教員も関わっていた。提言をまとめるにあたっては、「世界史」を担当する教員からは地理的基礎のない生徒に世界史教育を行うことの難しさが指摘され、国際関係を専門とする大学教員は、世界地図が頭に描けない生徒・学生相手に講義を行う空虚さを述べた。このように、地理教育の重要性は、広く支持されたのである。一方、歴史教育においてはその内容についての根本的な見直しが議論された。これらの議論が、「地理総合」「歴史総合」の必修化を推進したのである。

さらに「地理総合」必修化には、社会的な要請もあった。近年日本各地で自然災害が頻発するようになった。必然的に防災教育の重要性が叫ばれることになった。しかしながら、現在の学校教育の中で「防災」という科目を新設することには無理ある。そこで、従来の教科・科目の中で防災を扱うことが要請されたのである。その中核として「地理」がふさわしいと考えられたのである。いうまでもなく、自然災害は、地震や暴風雨、火山噴火といった自然現象がきっかけとなるが、そこに人間が生活していなければ、災害と認識さ

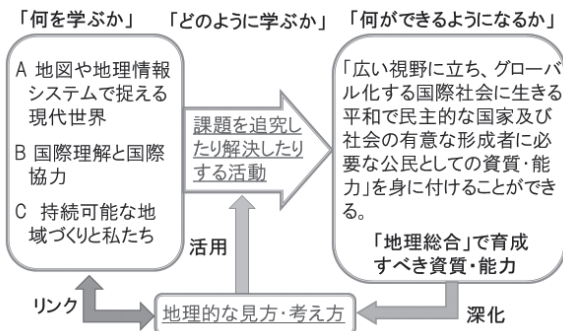
れることはない。すなわち、人間社会と自然の双方に基盤を置く「地理」がふさわしいと考えられたのはある意味当然といえる。

ところで、平成30年版学習指導要領改訂では、少なくとも「地理歴史」に関してその作成のプロセスにおいて画期的な変化があった。従来、文科省担当官を中心とした一部研究者等で検討されてきた学習指導要領の内容が、学会等と協調してそれらの意見を吸収する形で検討がなされたのである。

日本学術会議心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会で「地理基礎」「歴史基礎」が議論され、いくつかの具体案が提示された。これらは、学術会議を中心に、加盟する学協会の会員に対するヒアリング等を行って作成したものであり、「地理基礎」については、日本地理学会地理教育専門委員会が実務的な役割を担ってきたのである。

3. 「地理総合」の目標と内容・方法はどのようなものか

◆「地理総合」の目標



第1図 「地理総合」の構造
(日本地理学会地理教育専門委員会)

第1図は平成30年版学習指導要領「地理総合」の目標、内容、内容の取扱いについて図解したものである。「目標」すなわち「何ができるようになるか」は現行の「地理歴史」を踏襲している。また、「内容」すなわち「何を学ぶか」については、「地理A」を踏襲しており、見方を変えれば大きな変化はないともいえる。しかし、目標と内容、方法が密接につながるように示されていることが大きな特徴といってもよい。従来の学習指導要領においては、大関（2000）が指摘するよ

うに、内容が目標を直接受けた形で記載されていない。目標の実現に関しては、現場教員の創意工夫にゆだねられていたのである。平成30年版学習指導要領においては、目標に着目すべき「概念（地理的な見方・考え方）」が示されるとともに、内容にも身に付けさせる知識・技能、思考力・判断力が明示されたのである。

これは、各教科の枠を超えた、教育改革の動きも関わっている。たとえば、教育再生実行会議である。この会議では今日の教育の課題について、教育現場とは一定の距離を持った構成員を中心に、議論が進められていた。いじめ問題や、高校と大学の接続、これからの時代に求められる資質・能力とそれを培う教育、教師の在り方などの様々な提言がなされ、実行に移されている。高校と大学の接続に関しては、入学試験の在り方をめぐって、とくに英語に関して制度設計上の課題から大きな批判を浴び、仕切り直しがなされている。しかし、これからの時代に求められる資質・能力に関しては、従来の教育改革の延長上にあることから、一定の理解が得られてきた。すなわち、新しい学力観として「コンピテンシー」の重視である。従来から、いわゆる知識の「詰め込み」主義の教育には疑問が示され、これにかかわって、新たな学力観として、思考力や表現力が強調されるようになってきた。コンピテンシーの重視はこの延長上にあるものといえる。コンピテンシーの重視とは、単に何を知っているかだけでなく知っていることを使って何ができるのかということに重視する考え方である。この考え方に沿って行けば、当然学習方法を改革する必要がある、そのための方策がいわゆる「アクティブ・ラーニング」である。「アクティブ・ラーニング」とは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称である。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

こうした学習においては、当然生徒の主体的な学習

が重視されるが、生徒が活動しているからといって、十分な「学び」になるとは限らない。そこでもう一つのキーワードとして「深い学び」がある。すなわち学問の知識や技能の裏付けである。「地理総合」は、こうした背景をもって成立した。

ところで「地理」の学習においては、「コンピテンシー重視」・「アクティブ・ラーニング」という考え方や手法は50年以上も前から内包されていた。たとえば、昭和35年度版高等学校学習指導要領地理Bの目標に次のように記載されている。

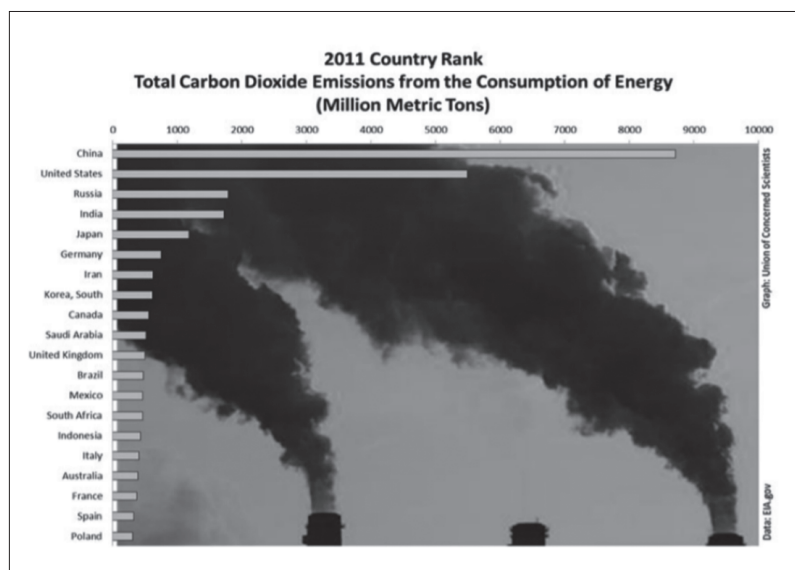
- (4) 現実の社会の諸問題を理解し判断するために必要な地理的知識を得させ、これらの問題を科学的、合理的に考察し、これに正しく対処していこうとする態度とそれに必要な能力を養う。
- (5) 地図、統計その他の資料を有効適切に利用する能力と習慣を養うとともに、野外調査、見学などによって具体的な事象にふれ、これを地理的に探究していこうとする態度と、それに必要な観察力、思考力および判断力を養う。

地理的知識を基に現代社会の諸問題に正しく対処していこうとする能力、観察力、思考力、判断力を養うといった記述は、コンピテンシー重視の考え方と一致しているものであり、野外調査や見学といったアクティブ・ラーニングの具体的な方法が記述されているのである。また、教科の基礎となる「地理的な見方・考え方」は昭和44年3月中学校学習指導要領から明示されてきた。高等学校学習指導要領に明示されるのは

平成11年3月告示が最初であるが、すでに昭和31年版学習指導要領の目標に「他地域との比較・関連や人間と自然との関係という点から理解させ」とあるように「地理的な見方・考え方」の一部が明示されていたのである。したがって、地理教育の方向性としては、従来と全く変わっていないともいえる。

ところで、地理教育の改革の動きは、わが国独自のものではない。グローバル化とそれに伴う様々な課題、ESDへの関心は、世界各国において地理教育の意義を再確認させるとともに、伝統的な地理教育の改革を促してきた。伝統的な地理教育は、世界各地の情報を知識として伝達するいわゆる「地誌」が中心であった。しかしながら、現代社会においては地域の様相は大きく変化していること、情報化が進み世界各地の情報がリアルタイムで得られるようになったことから、伝統的な地誌教育の意義は失われつつあった。もちろん、基本的な地理的な知識は必要であるが、それを身に付けさせるのは中等地理教育の主たる課題ではない。中等地理教育の課題は、現代社会の諸問題に対峙し、地球の未来を考えていくことであり、「概念（地理的な見方・考え方）」を中心とした問題解決型の学習へと変化しているのである。

例えば、Lambert, D. and J. Morgan (2010) は、世界各国の二酸化炭素排出量（第2図）を示しつつ、次のように指摘する。



第2図 世界各国の二酸化炭素排出量（2011）

イギリスは温室ガス放出の中で少ない割合しかない。…インドや中国が増加させていることが問題である。…これらの指摘は「不十分な地理的素養」に基づく認識であるという。そして、世界経済の中で英国の役割を再構築してきた（世界の工場からの脱却）ことやその結果、公害を輸出してきたことを忘れるべきではないことを述べる。さらに、国内では、製造業地域の衰退、南北格差の増大、ロンドンを中心とする金融部門への集中といった問題が生じていることなどを指摘する。つまり、表面的事実の背後にあるそのほかの「地理」を考える必要があることを強調し、これこそが地理の学習で求められる思考力だということである。平成30年告示高等学校学習指導要領に示された言葉を使えば、「空間的相互作用」についての考察といえるであろう。

現在、我が国においては志村を中心にこうした教材の開発共有化を進めている（志村他 2017）。筆者も防災に関する教材を提示した（秋本他 2017）。

4. 「学力」をどう評価するか？

こうした目標が効果的に行われるためには、それに合わせた評価を行う必要がある。つまり、基礎的な知識の有無、事実を読み解く読解力、要因を考える統合・分析力、対応策を考える考察力、意見を表明する表現力などを総合的に評価すべきである。実際の授業では口頭発表やレポート作成などを含めて、多角的評価することは可能であろう。ただし、大学入試や資格試験等では難しい面もある。とはいえ、地理においては従来から「コンピテンシー」を重視する教育が指向されてきたため、読解力や統合・分析力、考察力などの問う試験問題に一定の蓄積がある。これらの蓄積を顧みることが重要であると考えられる。では、具体的にどのような問題が学力を測定するうえで適切か、過去の様々な試験問題からいくつか例示する。

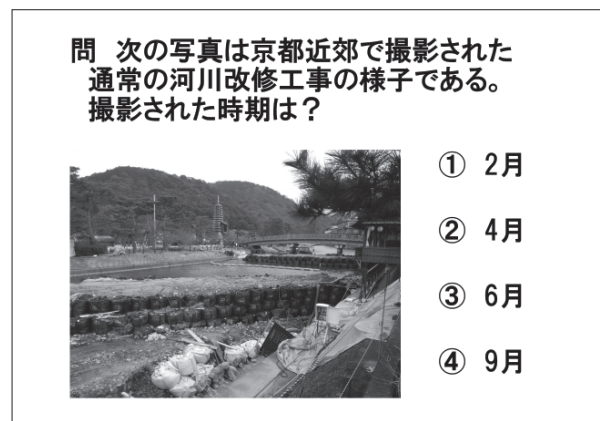
まず、選択式問題である。この種の問題は、一定の知識の有無を測定するには効率的である。知識だけでなく、読解力や考察力などを測ることも十分可能である。

国際地理オリンピックは、世界の高校生を対象とし

て行われる科学技術コンテストの一つである。地理オリンピックでは、マルチメディア問題（画像等を使用した択一問題）と論述問題、さらにフィールドワーク技能とそれに基づく問題が出題され、「地理的な能力」を多面的に測定している。マルチメディア問題は、以下に見られるように画像などのデータを読解し、基本的な知識と組み合わせて解答するような出題であり、読解力と分析力の評価が期待されている。



資料1 地理オリンピック一次予選の問題（1）



資料2 地理オリンピック一次予選の問題（2）

資料1は、地理オリンピックの国内予選の問題である。写真は世界遺産にもなっているモスタルの街を示したものである。上の写真中央に示された、スタリ・モストがその象徴となっている。しかし、このような知識を「暗記」していることを期待しているわけではない。本問では、写真からイスラームの建造物が複数あることからイスラームの分布地域であることを類推したうえで、ヨーロッパにおけるイスラームの分布を

考えることで解答できるのである。画像（景観）の読解力と現象の分布に関する知識を組み合わせる問題となっている。

資料2も、地理オリンピック国内予選の問題で、宇治川の河川改修工事の写真である。河川改修工事はいっつ行うのが効率的か考えることが重要である。つまり、河川改修工事をする際に、河川流量が少なく、かつ水需要も少ないといった条件である。これは太平洋側の地域では冬季にあたるのが思いつければいいのである。人間と自然との関係についての見方・考え方を問うているのである。

大学入試センター試験にも思考力や分析力を評価する点で優れた問題も少なくない。

平成29年度大学入試センター試験（本試験）において、地域調査に関する問題は地理A、地理B共通問題として出題されてきた。

問6 老朽島の離島としての特徴に関心をもったノゾミさんは、いくつかの社会的な指標から老朽市と長崎県内の他の市町とを比較した。次の図5は、長崎県内の人口5万人以上の市の分布と、長崎県におけるいくつかの指標を市町ごとに示したものであり、E～Gは、居住する市町内で買い物をする割合*、小学校の複式学級率**、人口1,000人当たりの医師数のいずれかである。指標名とE～Gとの正しい組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 34

*購入金額に占める割合。通信販売による購入は他の市町での買い物に含める。
**全児童数に占める複式学級(複数の学年をまとめて授業を行う学級)児童数の割合。

図5

資料3 平成29年度 大学入試センター試験（本試験）問題

資料3の問題が良問となるのは人口5万人以上の都市の分布が掲載されていることである。そのことで都市と離島（周辺部）の地域性を考察と一般化することが可能になる。そして都市部が低く離島など高いという指標F、都市部で高く離島などで低い指標G、都市

部と離島で高いという指標Eに分けられ、それぞれの分布パターンを類推するという手順となる。

問3 次の図5は、スペインとドイツの国土を四分割したものであり、下の図6中のカとキは、図5のように分割した範囲に含まれるスペインとドイツのいずれかの人口規模上位20位までの都市について、都市数を示したものである。また、次ページの表1は、スペインとドイツの人口規模上位5都市における日系現地法人数**を示したものであり、DとEはスペインまたはドイツのいずれかである。図6中のカとキおよび表1中のDとEのうち、ドイツに該当する正しい組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 26

*島嶼部を除いた大陸部分の国土を対象に正方形で四分割した。
**日本企業の出資比率が10%以上(現地法人を通じた間接出資を含む)の現地法人数。

図5

11	2	6	6
4	3	4	4

カ キ

統計年次は、スペインが2012年、ドイツが2013年。
Demographic Yearbook 2013などにより作成。

表1

(単位:社)

	人口規模順位				
	1位	2位	3位	4位	5位
D	58	64	2	0	1
E	8	33	32	12	36

統計年次は2011年。
『海外進出企業総覧 2012(国別編)』により作成。

	①	②	③	④
都市数	カ	カ	キ	キ
日系現地法人数	D	E	D	E

資料4 平成29年度 大学入試センター試験（本試験）

資料4で示した問題は、評価委員会報告書（2017）によると大きく評価が分かれた。わたくしたちはこれを良問と評価した¹⁾。問題では集中と分散に着目する一すなわち分布状況の把握とともに、その要因を考察する思考力を問うている。都市の分布状況はそれぞれの国の地形などの自然環境や歴史的背景を反映している。また日系企業の進出状況は、一般的な分布と拡散の一般的な傾向、初期段階では1点に集中するが、時間が経過するにつれて面的な広がりが見れるといった空間的拡散の原理を反映している。分布事象を考え

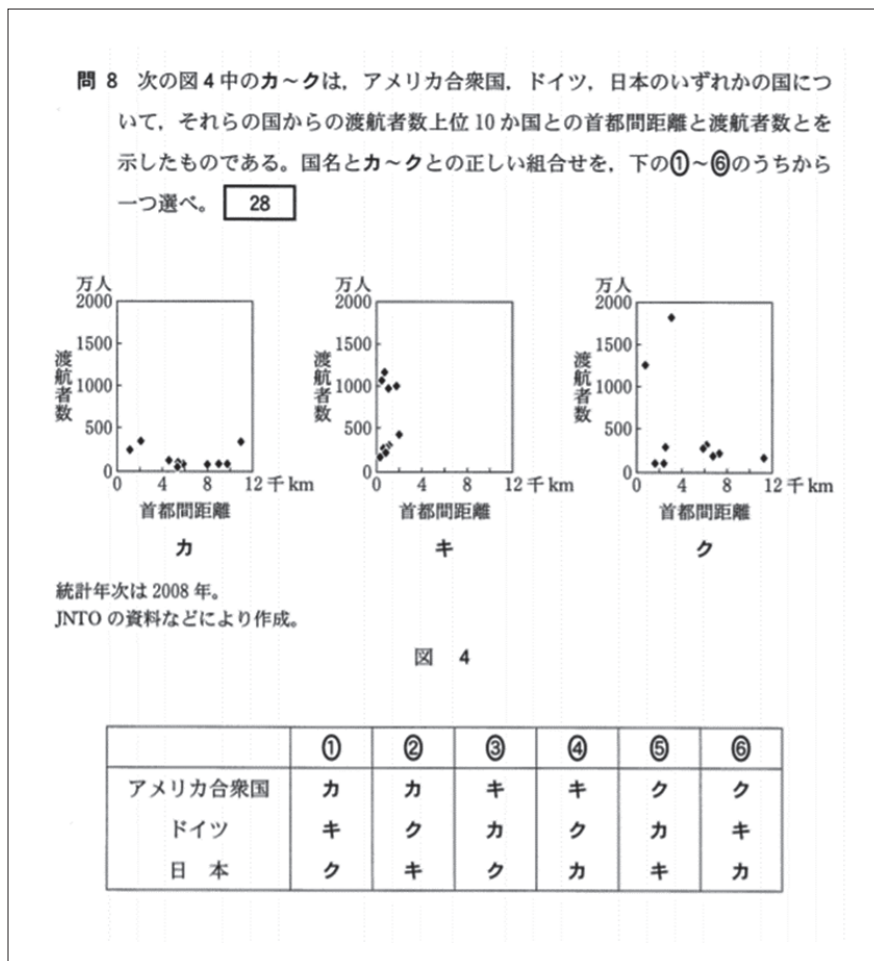
るために、歴史的視点を加味しているうえ、このことを直接授業の中で扱うことがないので、まさに知識ではなく、思考力を問う問題になっていると考えられる。

資料5の問題も、基礎的な地理的知識を基に資料を読み解き解答に至る問題となっており、地理的な思考力を試している。基礎的な知識としては、アメリカ合衆国、ドイツ、日本とその周囲の国の大まかな位置関係が頭の中に描けていることである。そのうえで、基本的に隣接国への渡航者は多くなり、遠い国は少なくなる、経済力と渡航者数は比例するといった法則性、すなわち空間的相互作用といった考え方を理解していることが必要になる。合わせてグラフを正しく読解する能力も問うている。

これらの問題は、マークシート（択一問題）なので、たまたま当たるといったこともある。しかし、一定数の問題を用意すれば偶然性は排除できる。評価に客観性が求められる大学入試等では今後も重要な評価方

法となる。しかしながら、表現力を評価することは不可能である。論述式試験が重視されるのは、知識や思考力に加えて、表現力も問うことが可能だからである。もちろん論述式試験だからと言って思考力や表現力のすべてを問えるわけではない。また、当然のことではあるが、評価にあたって一定の客観性が求められることも確かである。前述の地理オリンピックでは、短い文章で要点を答えるような出題がなされることが多い。

資料6は地理オリンピック二次予選の問題である。分布図を読み解く問題であるが、どこまで理解しているか、ということが問われている。一般論ではなく「地域性」を踏まえて解答することが求められている。地理的な見方・考え方として、自然と人間とのかかわりがあり、ここではその観点から説明することが必要である。それに加えて、歴史的背景を踏まえた説明が必要となろう。この2つの観点を要領よく述べる必要がある。表現力を問う問題であっても「簡潔明瞭」で

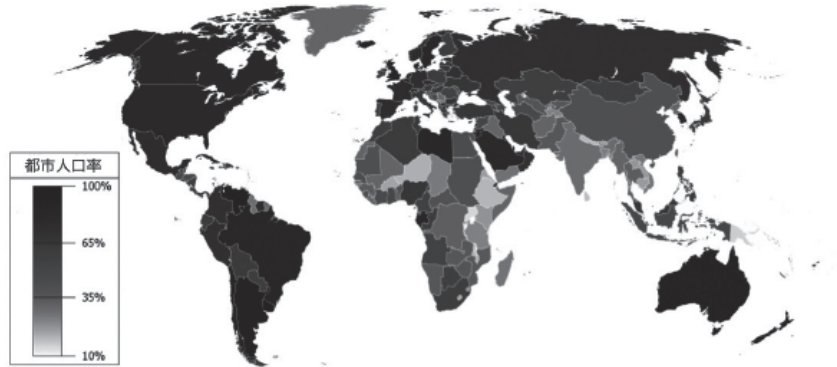


資料5 平成28年度大学入試センター試験（その2）

図1は、世界各国の都市人口率をあらわしている。都市人口率の高低は、国によって様々な背景がある。次の(1)、(2)の国々の都市人口率*が高い背景を、「経済発展」による理由を除いて、それぞれ説明しなさい。

※都市人口率とはその国の総人口に対する都市居住人口の比率のことである。ただし、国によって都市人口率の定義が異なる。

- (1) サウジアラビア・リビア
- (2) アルゼンチン・ブラジル



(UN Human Development Report 2007/2008 より作成)

図1 世界各国の都市人口率 (2005)

注) 灰色表示の国・地域は資料なし。原版はカラー図版。

資料6 地理オリンピック二次予選の問題(2)

あることが重要になる。

国公立大学の2次試験においては、古くから工夫された問題が出題されてきた。地理ではグラフィカシーすなわち、地図や図表の読解や作図する能力も重要と考えられている。これに対応するような問題もある。

分布に近い。つまり、概念的に理解していれば解答可能なのである。後段では、ニジェール川の大まかなルートが示されている。つまり、文章の読解力と地図への表現力の2つが求められている。図で示すという問題は、配点基準も明確にしやすいという点でも優れているといえよう。

アフリカについて以下の設問に答えよ。
 解答用紙に、0度の経線と緯線をひき、アフリカの南端と北端との距離がおよそ15行分になるアフリカの地図を描き、熱帯雨林と砂漠のおよその範囲を線で囲み、それぞれ熱帯雨林を斜線模様で、砂漠を点模様で示せ。地図は解答欄の右側によせて記せ。
 ニジェール川は上流から中流にかけて北流し、中流から河口にかけて南流する。地図上にニジェール川の流路のおよその位置を実践で示せ。また、中流部で見られる自然景観と河川沿いで行われている農業の特徴を90字以内で述べよ。
 (1992年東大)

資料7 国公立大学2次試験の問題(その1)

資料7で示した問題の最大の特徴は描図させることである。赤道を中心として、赤道を中心にアフリカ大陸の概略を描かせたうえ、熱帯雨林と砂漠のおおよその位置を描かせるものである。気候帯(植生帯)の配置には規則性があるうえ、アフリカ大陸はモデル的な

- 問1 上記の情報に基づいて、Y君の住む地方都市の市街地を中心とした約5km四方の地区の地図を、国土地理院発行の2万5千分の1地形図の地図記号を使用して解答用紙の枠の中に書きなさい。
- 問2 Y君は、夏の研究課題として、ある晴れた日の風のほとんどない午後2時過ぎに、市街地を中心とするほぼ5km背法の区域の東西・南北それぞれ1km毎の観測点で、友人たちの協力を得て一斉に気温を測定した。その結果を示したものが、次のページの表1である。(表略) 観測地点を(+)で示した答案用紙の図に表1に基づく等温線を描きなさい。
- 問3 等温線の分布はどのような特徴を持っているか、またなぜそのような特徴を示すと考えられるか答えなさい。

(2010年 名古屋大学)

資料8 国公立大学2次試験の問題(その2)

資料8の問題も与えられた情報を読解し、地図に示すという形式で、読解力と表現力を問うている。さらに、問2では、実際の研究でも行われている手順で問

題化したものである。観測結果を図示する、図から特徴を読み解く、要因を推測するという手順である。図を描くという表現力、図からその特徴を読み解く読解力、そしてその特徴と問1で描いた地図を参照しながらから要因を分析する力を総合的にみることが可能となっている。

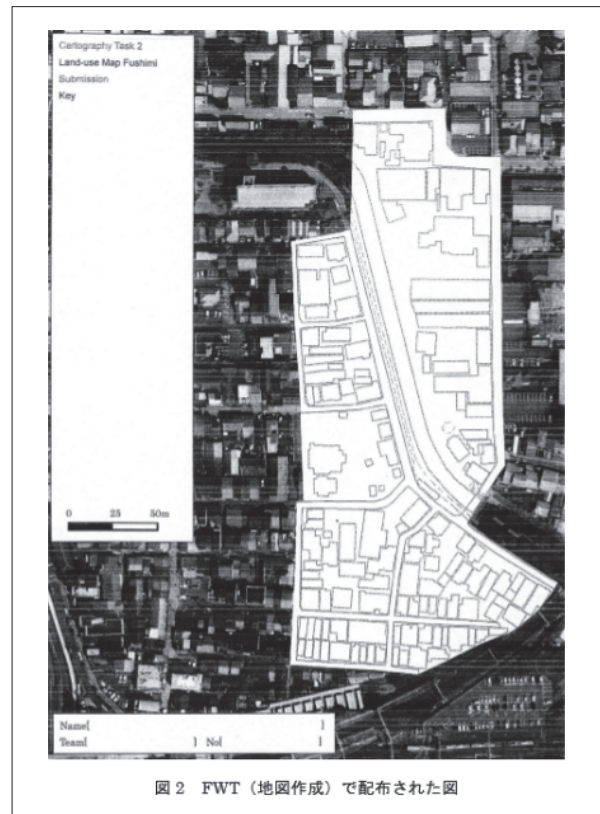
以上みてきたように、従来の蓄積から地理においては知識や読解力・分析力・考察力や表現力などを測定することは相当程度可能であると考えられる。ただし、問題の作成においては、作問者にかなりのセンスが求められる。また、こうした問題は、知識ベースの問題のように数多くの訓練をすれば確実に成績が向上するというものではない。授業実践の方法など一層の工夫が求められることは確かであろう。

一方、「地理総合」においても強調されるフィールドワークに関しては、いわゆる試験という形式で出題された例は極めて少ない。その中で、国際地理オリンピックにおいて行われているフィールドワーク試験は参考になる。特に国際大会においては、様々な国・地域の代表が集まるため、主催国の生徒だけが有利にならないように工夫されている。すなわち、事前に地域の概要などは資料として配布され、それらを読み込んだうえで、実際のフィールドに出かけるのである。

試験は大きく2種類に分かれている。一つは地図作成テストで、観察した結果を地図に示すというものである。2013年に京都で行われた国際大会では京都市伏見区の運河沿いの地区の土地利用図の作成が求められた(資料9)。機械的に作成すればいいのではなく、どのようなことを主張したいのかが地図に的確に表現されていることが求められている。

一方、意思決定テストとは、野外観察と与えられたフィールドに関する統計や地図などの資料集(Source Book)を参考資料として活用しながら、設問に答えるスタイルの筆記試験である。2013年においては、京都市伏見区におけるこの地域の災害対策と持続可能なコミュニティプランニングの2つについて、簡潔に答えよという問題であった(資料10)。

提案そのものは、常識的なことかもしれないが、地域の脈絡に即しては解答することが求められており、



資料9 国際地理オリンピック京都大会の問題
(マップメイキングテスト)

観察力に加え、資料を読み解く力と活用力や表現力など多角的に評価することができる。

5. 終わりに

「地理総合」が目指す方向性について、地理学関係者の間では肯定的な意見が大半である。しかしながら、その実施に関しては、高校教員を中心に不安を述べるものは少なくない。とくに、大学入試と関連して、いわゆる進学校の教員を中心に評価に関してはどのようになるかについての関心が高い。ここに述べたように、「地理総合」は従来の「地理」とその方向性において大きな違いはない。したがって、評価問題に関しても過去の蓄積は参考になる。

一方、現行の地理Aが理念はともかく実質的に中学校社会地理的分野、特に世界の諸地域の部分とほぼ同じになってしまったことについても大きな反省をしたい。中学校・高等学校を通じて、地理的な見方考え方の育成とともに、基礎的な知識の定着を十分に図っていくような教育実践が求められている。

1. With reference to the fieldwork Site B, planners aim to come up with new strategies that will minimize the risk of flood damage in the larger river catchment shown in the maps provided. There are 7 marks for this task.
 - i . In terms of (a) infrastructural development (hard) and (b) socio-communal activities (soft) , list six strategies (three infrastructural and three socio-communal) that can be applied in the catchment. Specify the locations where they apply.
 - ii . Then, write expanded notes on each of the strategies you propose, using text (and possibly graphics) to explain the effects of your strategies on flood hazard management in the catchment.

2. Fushimi's historical development has been based on water and importance of its site near Kyoto. The history is reflected in historical landscape preservation, with visitors to a local temple, sake brewing sites, and canal-based activities. Planners now need to develop a strategic plan that provides a sustainable future for the community. Strategic plan often make reference to residential environments, retail and commercial provision, manufacturing and industry, transport infrastructure, education and social services, recreation/cultural activities and reserves and open spaces. There are 13 marks for this task.
 - i . Write a one sentence 'vision statement' for a sustainable Fushimi in 2035. Outline at least four strategies that link directly to this vision statement. The importance of water and the opportunities provided by tourism should not be ignored.
 - ii . Using the map template provided, make an annotated map that shows the generalized spatial extent of the various activities you propose for the Fushimi area. Provided a suitable map legend.

資料10 国際地理オリンピック京都大会の問題（意思決定テスト）

注

1) 日本地理教育学会は大学入試センターよりセンター試験問題の評価を依頼されている。筆者は入試検討委員会委員長としてこれにかかわっている。

追記

本稿は、大学入学者選抜改革推進委託事業人文社会分野（地理歴史科・公民科）（代表早稲田大学）の地理分科会での議論を中心にまとめたものであり、秋本が公開ワークショップ（平成29年3月8日、大隈記念講堂小講堂）で発表した。同分科会にはコンソーシアムを構成する早稲田大学の久保教授、池教授、立命館大学の吉越名誉教授、同志社大学の津村准教授、二村准教授そして河合塾の佐藤講師と獨協大学の秋本が委員として参加した。なお本稿についての責任は秋本にある。

参考文献

- 秋本弘章・中村文宣・武者賢一・西川昌宏（2017）地理的見方・考え方にもとづく防災についての考察。地理62（10），pp.94-99. 大関泰宏（2000）「地理的な見方や考え方」の系譜。岐阜大学教育学部研究報告—人文科学—、49（1），pp.29-37.
- 志村橋・山本隆太・広瀬悠三・金玟辰（2017）イギリス発「地理的見方・考え方」に気づく1枚の図。地理62（6），pp.96-101.
- 独立行政法人大学入試センター（2017）平成29年度大学入試センター試験試験問題評価委員会報告書.
- Lambert, D. and J. Morgan (2000) *Teaching geography 11-18: a conceptual approach: A Conceptual Approach*. Open University Press. 192p.

A Study on the New Required Subject “Geography”

— Content and evaluation —

AKIMOTO, Hiroaki

This paper examines the goals and evaluation of the new required subject of high school “Geography”. First, the history of making “geography” compulsory is described. In addition, the goals and contents of the new subject “Geography” were examined. The goals of this course reflect the international movement for geographic education reform. The content has been requested by today’s Japanese society. Active learning was considered important in all subjects, including geography. Review of learning evaluation is also required. The goal of “geography” itself is consistent with the previous curriculum. Also, “geography” inherently includes active learning. Therefore, it is useful to analyze past excellent test questions when considering evaluation in new subjects.